

農業も、農業以外も 多彩な楽しみが待っている

八雲町 Yakumo Village (ヤクモヴィレッジ)



八雲町・道南地域
コーディネーター
あかい よしひろ
赤井 義大さん

日本海と太平洋、2つの海を有する八雲町は、豊かな自然に囲まれ、漁業はもちろん、農業や酪農も盛んな町。この地域資源を活用しようとして2018年に立ち上がったのが「Yakumo Village」。同時期に「八雲グリーン・ツーリズム推進協議会」も発足し、農業や漁業など非日常的な体験に加え、ネイチャーアクティビティや地域のイベント開催など、地元の人と交流しながら楽しめるプランを提供している。立ち上げの中心になったのは八雲町出身の地域コーディネーター・赤井義大さん。海外や東京で働いていたときに感じていた、「ここにいる若者を地元と呼ぶには、何かきっかけが必要なのは

ないか」という考えを形にした。「新しいことを生み出さないと地域はどんどん寂しくなっていくます。そんなところには人は寄り付かないですよ。仮に来てもらったとしても、気に入ってもらわな」と意味がない。他所の世界を見てきた自分だからこそできることがあると思っただけです」と当時を振り返る。

体験プログラムは、収穫体験など一般的な農業体験に加えて、「もち米農家で本格餅つき体験」や「高級軟白ネギをいただく！ネギの収穫体験とBBQ」といった+αの要素が加わった少レユニークなものも並ぶ。地元の人との交流が図れる場として、銭湯だった建物をリノベーションし、カフェとゲストハウスも生み出した。体験を楽しむために1〜2泊する人が多いが、中には数カ月間に渡り長期滞在する人もいるそう。「最初は地元目線で企画を立てて動いていましたが、それだけ

では面白いものは生まれなと実感したんです。外部の人にもメンバーに入ってもらおうと、求められていることがはつきりしたと思います」。これらの取り組みの面白さは、海外の人たちを中心に話題を呼び、実際に移住してきた人もいるという。この成果について赤井さんは、「非日常体験をするには、農業が一番フィットします。自然に囲まれることで癒されるし、食の大切さも学べる。ただ観光するより価値のある体験が可能なんです。協力してくれる農家さんにとっても、地元以外の人たちと交流することで、新しい価値観が育まれるきっかけになっていると思います」と話す。

さまざまな化学反応が起こり、より面白いことを生み出して提供できるのではと思っています。八雲町をはじめとする道南の農村ツーリズムは、これからもっともっと楽しくなっていくですよ」と、自信をのぞかせる。

目指すのは「観光以上、移住未満」だ。「楽しかったねと通り過ぎるだけの観光ではなく、地域とつながり、居場所や足跡をのこす滞在をしてもらいたい」と赤井さんは続ける。八雲町の農村ツーリズムは、まさに「ここでしかできない体験」の宝庫。関わる人たちの想いを受け取り、さまざまな気付きを得られるプログラムを、ぜひ体験してもらいたい。

また、農業体験以外にも、ネイチャーサウナや名所巡り、八雲町が発祥の熊の木彫り体験なども用意されており、コンテンツの充実度合いは高い。ゲストハウスを活用したワークショップにも力を入れていく。これは滞在時間を少しでも長くするための仕掛けだという。さらには地域の垣根を越えて盛り上げていけるよう、2021年には道南でまちづくり活動をしている人々がつながり、成長するきっかけ作りとして「道南サミット」という団体を立ち上げた。「価値観の違う者同士が同じ目的に向かって進むことで、さま



「目指しているのは、観光以上・移住未満」



Yakumo Village (ヤクモヴィレッジ)
八雲町末広町30
TEL.0137-66-5526 (9:00~17:00)
<https://yakumo-village.com>

